

令和5年度第2回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議 会議録

日時：令和6年（2024年）3月1日（金） 15時～16時40分

場所：中央図書館 多目的室

出席者：横山委員（長谷幼稚園）、熊倉委員（ピヨピヨ保育園）、
藤畑委員（御成小学校）、堀江委員（市民）、太田委員（教育指導課）、
鈴木委員（保育課）、川村補佐（発達支援室・代理出席）
（事務局）栗原中央図書館長、中野深沢図書館長、
水野（玉縄図書館）、平本（深沢図書館）
障害者サービス担当：島田（中央図書館）

欠席者：鈴木委員（深沢中学校）、神杉委員（市民）、松本委員（こども支援課）
小林委員（青少年課）

傍聴者：2名

議事次第のとおり、議事を進行。

議事次第 1 「第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画の進捗」

（1）「読書バリアフリーについて」

事務局から「市図書館の障害者サービス」及び「市図書館今年度の読書バリアフリーに関する取り組みについて」説明。

（質疑応答）

（委員）今まで知らなかったサービスが多かった。デイジー図書についても初めて見たので、紹介してもらって感謝する。デイジー図書は1ヶ月におおよそどのくらい利用されているのか？

（事務局）年度によって波がある。今年度は月10点ほどの月や20点弱の月もあった。デイジー図書再生機をお持ちの方もいれば、CDプレイヤーはもっているのでCDやカセットを借りたい方もいる。

（委員）地道な取り組みだと思う。教えていただいてとても良かった。

（事務局）補足させていただく。なかなか多くはない件数かもしれないが、自分でサピエ図書館を知っていて、市図書館を経由せず個人で借りている方もいる。市図書館としては、きっかけ作り、情報提供が大事だと考えている。件数が多い少ないではなく、継続的に取り組んでいくことが図書館の役割。このような機器、サービスがあることを皆さんに知ってもらって、皆さんと一緒に子どもの読書推進という観点で様々な施設・団体、様々な方々と共に取り組んでいけたらと考えている。

（委員）実際に本や機器を見て改めてすごいなと感じた。ただ、自分でそうした情報を見にいける人はよいが、情報にアクセスすることに障害がある方が多いと思う。広く知ってもらい、幼稚園・保育園の先生やその他先生方や、いろいろな場所でこのことを知っている方を増やすことが大切。事務局のいうとおり、PRに力を入れていращやるのだなと思った。

（委員）一つの施設で全ての障害者サービスに関する本や機器を集めるのは限界が

ある。他自治体も含め図書館間で相互利用ができるとよい。

(事務局) サピエ図書館がまさにそうだ。登録すれば全国の図書館が検索し、借りることができるシステムとなっている。

(委員) 市図書館がサピエ図書館への窓口になっているのか。

(事務局) パソコンがあれば個人でもサピエ図書館を利用できるし、市図書館を経由して利用していただくこともどちらも可能だ。

(事務局) 市販されていないダイジー図書でも、ボランティア団体である鎌倉朗読録音奉仕会に製作してもらい、鎌倉市図書館が貸出している作品もある。

(2) 「各課・各施設・学校等の取組みについて」

(委員) その他、各課・各施設・学校などから今年度の取組みについて報告があるか。

(委員) 幼稚園での活動になるが、各学年から「図書委員」を選出して委員会活動を行っている。内容は日々の幼稚園の本の貸出や、バザーにおいて大型絵本の読み聞かせ及びリサイクル本の販売だ。日々の幼稚園の本の貸出では、保護者2、3人に対し生徒2、30人程が押し寄せるため個別に対応しきれない面もあるが、本の面出しをしたり、借りる本を迷って決められない子には相談に乗り、貸出カードの記入も分担して、努力している。子どもたちは生活に則した本が好きようだ、今の時期なら桜に関する絵本や、少し前だと餅つきの本やクリスマスの本、図鑑など。なるべく挿絵や言葉が美しいものを選ぶことを心掛けている。貸出は上限2冊、4日間の期限。子どもが自分自身で本を選ぶことが大切だと思っている。引き続き取り組んでいきたい。

(委員) 小学校では毎週月曜日に15分間、朝読書を行っているのと、月1回または2回、保護者ボランティアに読み聞かせをしていただいている。また、クラス毎、図書委員におすすめの本を紹介してもらい、その本を図書室で展示するなども行った。コロナ感染拡大が落ち着き、本を介して人と人とが関わり合って本を紹介し合おうという機会が増えたように感じる。

(委員) 保育課としては公立保育園の運営をしているのと、民間保育園とは補助金事務などで関わっている。日々、保育の現場では、読み聞かせをしている。本のための予算を増やせない状況で、寄贈本に頼っている。図書館と連携して何かできるといい。

(事務局) 先ほどお話したリサイクル本の譲渡会では、公立保育園も4園ほどきて、本を譲渡できた。学校図書館も何校か来ていた。

(委員) 今年度、自分が勤める私立保育園では深沢図書館を利用してみようということで、雨の日の散歩先として何度か深沢図書館の子どもコーナーを利用させてもらった。大型絵本などを見て大喜びだった。雨の日で利用者が少なかったからか、子どもたちが騒いでも温かい目で見ていただきとがめられることもなく楽しい時

間を過ごした。利用者が多い場合はどうなるのかなとは思いますが、子どもたちにとっては妨げられることなく本を楽しめることがとても良いことだと改めて感じた。

(委員) 図書館としては子どもが大勢、一度に来館した場合、受け入れは大変ということはないか？

(事務局) 深沢図書館は、大人のコーナーと子どもコーナーが比較的離れた配置となっているので、子どもや子ども連れの方が来館しやすいと思う。さきほど紹介した放課後デイサービス等の施設がきてわいわいしていても、共存できている。

(委員) 他の利用者からご意見や何か指摘されることもあるのか？

(事務局) あまりない。学習センターでイベントがあった時に1度だけ館外のイベントの音について苦情を受けたくらいか。

(委員) じゅうたんのある子どもスペースは最も奥になるので、そちらにいる分には問題ないことが多い。書架スペースに出て子どもたちが歩き回ると、大変になってしまいそうなので、そちらには行かないようにしている。

(事務局) 中央図書館も児童コーナーは比較的、独立している。保育園が団体で来館してもうるさいという声は聞いていない。ゾーニングは大事なので、工夫しながらやっていけるといい。

(委員) ゾーニングのことでご紹介したいことがある。岐阜県に「ぎふメディアコスモス」という、昨年度ライブラリーオブザイヤーで大賞を受賞した岐阜市の複合施設があり、その図書館を利用した。非常にユニークな設計で、ワンフロアに巨大な電気の傘がいくつもぶら下がっており、その電気の傘の下のスペースがそれぞれコーナー分けされている。ワンフロアの空間でつながっているのに、なぜかうるさく感じなかった。その理由として、音には「直達音」と「反射音」の二種類があり、電気の傘の下だと反射音が伝わらない仕組みのため、それほどうるさく感じなかったようだ。ゾーニングの一種とも言えるが、建築上の工夫がなされていて素晴らしいと感じた。

(委員) 事務局の人も「ぎふメディアコスモス」に行かれたのでは？

(事務局) 委員と同じように感じた。子ども連れの人がたくさんいたが静かだった。ワンフロアの周りには、個室も配置されていて、そこで静かにしたい方やグループ討議用の部屋があった。うまく空間が作られているなと感じた。

(委員) 自然な形でゾーニングできるとよい。我々は子どもの読書を推進する立場だが、子どもだけでなく一般の人も安心して利用でき、子どもと大人が共存できるゾーニングを考えたい。ゾーニングのためには一定の広さが必要になる。

議事次第 2 「アンケートについて」

アンケートについて概要を事務局から説明した後、前回の連絡会議でも数値目標の話がでたが、定点観測として毎年実施するアンケートについて、数値目標を定めるかどうか意見を求めた。

(委員) 市内の公立学校図書館では、魅力ある蔵書構築のために、古くなった本を中心に蔵書整理をしたり電子システム化を進めた。また、より読書活動を推進していくため学校図書館専門員・読書活動推進員への研修の機会をひろげている。教員と一緒に研修を行うことも検討中だ。また、学校図書館専門員・読書活動推進員が自身の希望する研修に参加するための交通費を補助したり等も行っている。機会を創出し、今子どもたちにどういったことが必要か掴んでいくことが大切だと考えているが、限られた予算の中、必ずしも蔵書数ではかるのも難しい。数値目標があると、蔵書数があるからよい、悪いという判断につながりかねないのが懸念だ。どのような目標があるとよいかこの会議で皆さんのご意見もお聞きしていきたい。

(委員) 今まで数値目標はどこかにでていたか。

(事務局) 第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画の19ページ21ページにかけて、おはなし会や講座の回数など数値目標を載せている。みんなで取り組んでいこうという計画なので、回数や蔵書数などより環境整備が大切だというのがこの計画となっており、そこまで細かい数値目標は設定していない。

(委員) 一律的な目標値というより、それぞれの施設の特徴があるので、それぞれに合わせて取組みを進められるような、本質的にこんな事柄が必要だから、その取組をバックアップするというようなものがあるとよい。

(事務局) バリアフリーについても、ある保育園で耳の聞こえない子が在園していた時は、「手話ってどうやるの?」と子ども達から声が上がったと聞いている。その時その時の状況で、対応していくものもある。図書館として状況に応じてバックアップしていきたい。

(委員) 図書館も施設も居心地を良くすることが大切。目標設定として人数などは分かりやすいのでは。本を読まなくても図書館に行っていていいし、借りなくてもいい。例えば行政センターに何人入って、そのうち何人が図書館を利用したか、などは指標になるのでは。

(委員) 市図書館は利用者をカウントしているか?

(事務局) 市図書館では、来館者カウンターなどで統計をとってはいるが、簡易的なもの。ない施設も多いのでは。

(委員) 学校図書館は来館者カウンターはなく、利用人数を正確に把握することは難しい。居心地はとても大切だと感じるが、本を手にとることも目標にしたい。学校図書館以外にも教室や廊下などいろいろなところに本を手にする環境を作っている。数値目標は難しいが、人の部分も含めて、子どもが本に接する機会が増えるようにしたい。

(委員) 本があるところが居心地がよくなり、居場所になるとよい。今日ご紹介いただいた図書等を入れて、団体貸出として「バリアフリーセット」等があるとよいかもしれない。環境を整備する、施設の特徴に合わせた目標をたてたい。

(委員) 数値目標にしなくてよいのだが、「図書館利用がしにくい方へのサービス」について利用数を公表してもらえるとよい。先ほど聞いたが、デイジー図書の利用

が一月 10～15 件程度というのも多いと感じた。

(委員) 情報提供の機会をしっかりと取ってもらいたい。

議事次第 3 「施設整備について」

事務局から説明後、意見交換を行った。

(委員)「鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画(素案)」のパブリックコメントに意見を提出した。「鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画(素案)」の36ページの記載について危機感を持っている。素案では新中央図書館は2800㎡しかない。自分としては今の2倍程の面積を希望する。なぜ素案ではこんなに狭いのか、おそらく建物の半分を民間に貸し出すため図書館が狭くなるのではないか。予算の関係で鎌倉市では広くできないのだろう。

(事務局)市庁舎現在地に立つ施設は複合施設になるので、新中央図書館として示されている2800㎡だけでなく共用スペースも利用していきたいと考えている。民間機能については、現在検討段階で未だ確定はしていないと聞いている。

(委員)民間は5700㎡と図書館の倍というのはどうなのか。

(事務局)学習センターと図書館の共用部分の面積もある。そちらにも本を置いていき、建物まるごと図書館になるといいくらいの気持ちでいる。

(委員)居心地の良さは、本のあるスペースだけではかるものではないので、いい施設を作ってください。

(委員)子どもが安心して利用できる図書館のためには、ある程度スペースが必要になる。ゾーニングのためには広さが必要である、ということを訴えてほしい。

(委員)自分の知り合いで御成在住の人がいるが、鎌倉市図書館は暗いので、逗子市の図書館を使っているという人がいる。その話を聞いて、危機感を持った。使いやすい、居心地の良い図書館になるといい。

(事務局)暗いというのは、物理的にか、雰囲気か。

(委員)物理的にということのよう。未就学の子は大人に連れられてしか行けないので、大人が行きたいと思うところでないと行かない。

(事務局)耐震工事で光をふさいでしまったところがあり、採光について問題がある。一階の一部をLEDにした。そのためかえって、蛍光灯の部分が暗く感じられることもあるようだ。令和6年度は予算が認められれば、全てLEDとし、明るさは解消できるのではないかと考えている。

議事次第 4 「その他」

(事務局)来年度の見通しについてだが、第4次計画の計画期間は令和5年度から7年度の3年間となっている。令和7年度は策定の年になる。来年度である令和6

年度中に計画をどのように策定していくのか、大まかな方向性などは考えていきたい。連絡会議については、2～3回、だいたい7月上旬、11月下旬に行い、他に紙面会議のようなものを1回予定している。今後もどうぞよろしくお願ひしたい。